

第 35 回日韓技術士会議にあたって

社団法人 日本技術士会
会 長 都 丸 徳 治

第 35 回日韓技術士会議の開催にあたりご挨拶申し上げます。

私は、今年 6 月の定時総会におきまして、社団法人日本技術士会の第 17 代会長に就任いたしました都丸徳治と申します。よろしくお願いいたします。

本会議の開催にあたりこのようにご準備をしていただきました、韓国技術士会 李 桓 範 会長はじめ日韓両国交流推進実行委員会の方々のご努力に対し心から感謝申し上げます。第 1 回日韓技術士会議が開催されたのは 1971 年 10 月 21 日から 25 日にかけてでありましたが、回を重ねて 35 年が経過いたしました。これまでのご好誼に対しまして感謝申し上げますとともに、これからも更なるご厚誼をお願いする次第であります。この間の両国の社会・経済の発展は著しいものがありますが、両国の技術士が果たした多大なる貢献に心から敬意を表するものであります。

今回は貴国の歴史と文化の深さを感じさせる古都“全州市”での開催であり、喧騒の大都市を離れて改めて両国技術士会の交流の意義を考える良い機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。伝統ある芸術文化を少しでも吸収して参りたいと思います。さらに、今年は（2005 年）日韓国交正常化 40 周年であり、同時に日韓友情年でもあります。昨日は、初めての試みでしたが、全州ワールドカップスタジアムで次世代を担う日韓青年技術士達による親善サッカー大会が開催されました。これも次世代に繋がる一つの前進と期待しております。

さて、今回の会議のテーマは、「技術士の叡智 自然と人工の災害を防ぐ技術開発の方向」です。自然災害については、米国のニューオーリンズを襲ったハリケーン“カトリーナ”に代表されるように世界各地で地球温暖化の現象なのか、多くの異常気象をみました。また、わが国において最近発生したいくつかの不祥事は、技術あるいは技術士の存在や価値を疑わせるものがありました。たとえば鉄道脱線事故における軌道と列車安全速度との関係、原子力研究施設における無防備の臨界状態の発生などであります。社会・経済がこれほどまでに発展した社会においては、技術や技術士の役割が益々重要になってきております。国民が安全で安心して暮らせるように、そして社会の発展と繁栄がもたらされるために、技術という分野には休みや停滞はありません。技術士は一層の努力をしなければなりません。その意味で今回の会議が大いに貢献する事を期待しています。

また、技術や技術者倫理には国境はありません。これからも益々交流の絆を強め、この会議を通じて人類の平和と繁栄に少しでも貢献して参りたいと考えています。

活発な議論を通して日韓技術士会議が益々の発展をすることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。